



福知山公立大学

The University of Fukuchiyama

宮津市におけるオンライン診療 などICT利用の可能性について

2021年10月19日

第2回 地域医療あり方検討委員会

医療福祉経営学科 准教授

星 雅丈

地域医療情報システム

- 限りある医療資源（**ヒト・モノ・カネ**）を**有効に活用**するために、機器の共同使用や技術を共有する必要がある。
- そのためには施設間で、画像も含めた**情報の連携**が行えなければならない。
- **遠隔医療（Telemedicine）システム**
 - 患者から離れた地域、あるいは病院から離れた地域から診療や医療支援を行う試み。
- **地域医療情報ネットワーク**
 - 医療資源の偏在・地域差を解消する、あるいは継続的な医療サービスを行なうための試み。

地域医療情報システムの目的と技術

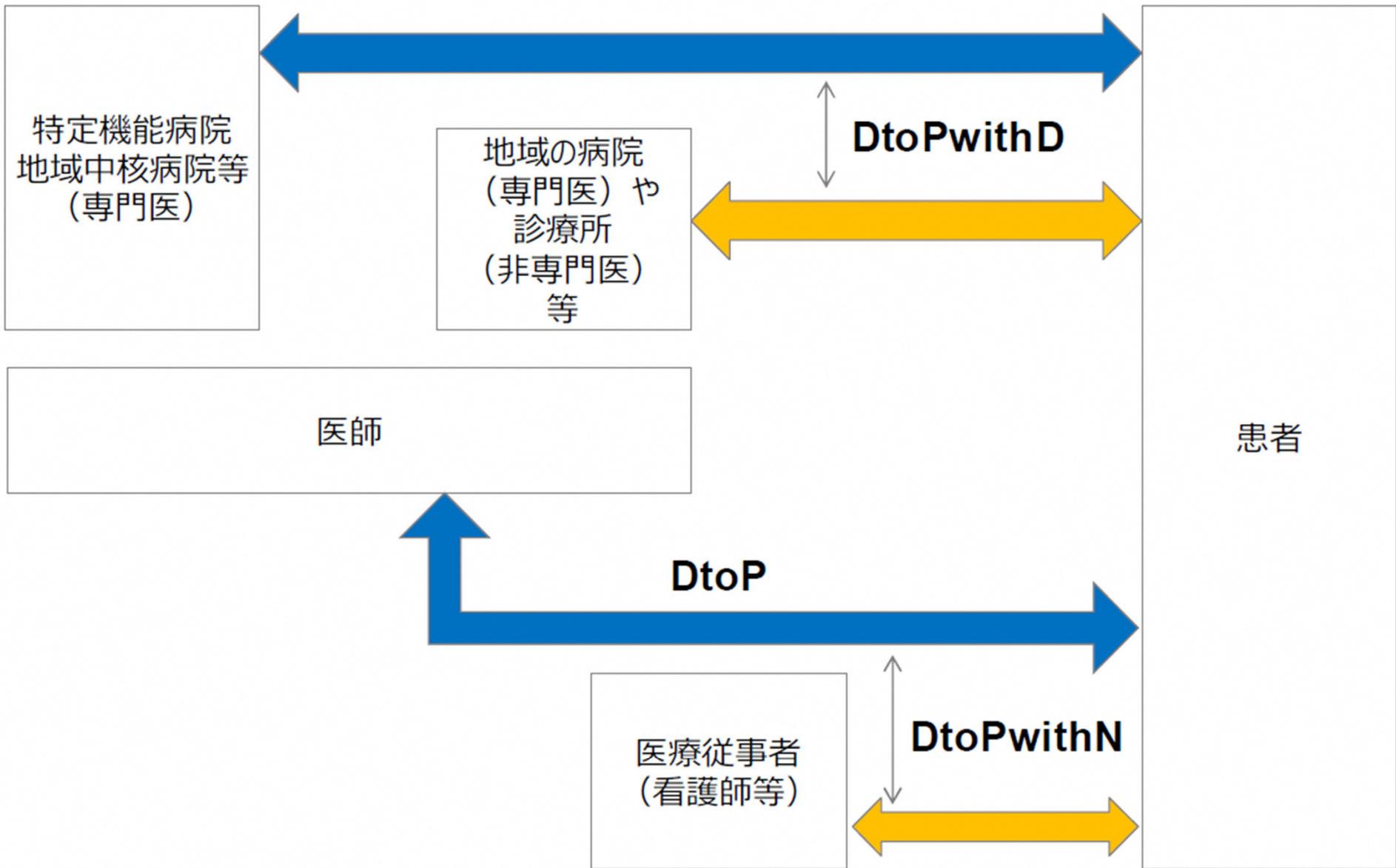
- **医療資源の偏在・地域格差の解消**
- **施設の機能分担と連携の促進による医療資源の効率的活用**
- **保健・医療・福祉の連携による患者中心の継続的サービスの提供**

前提となる技術

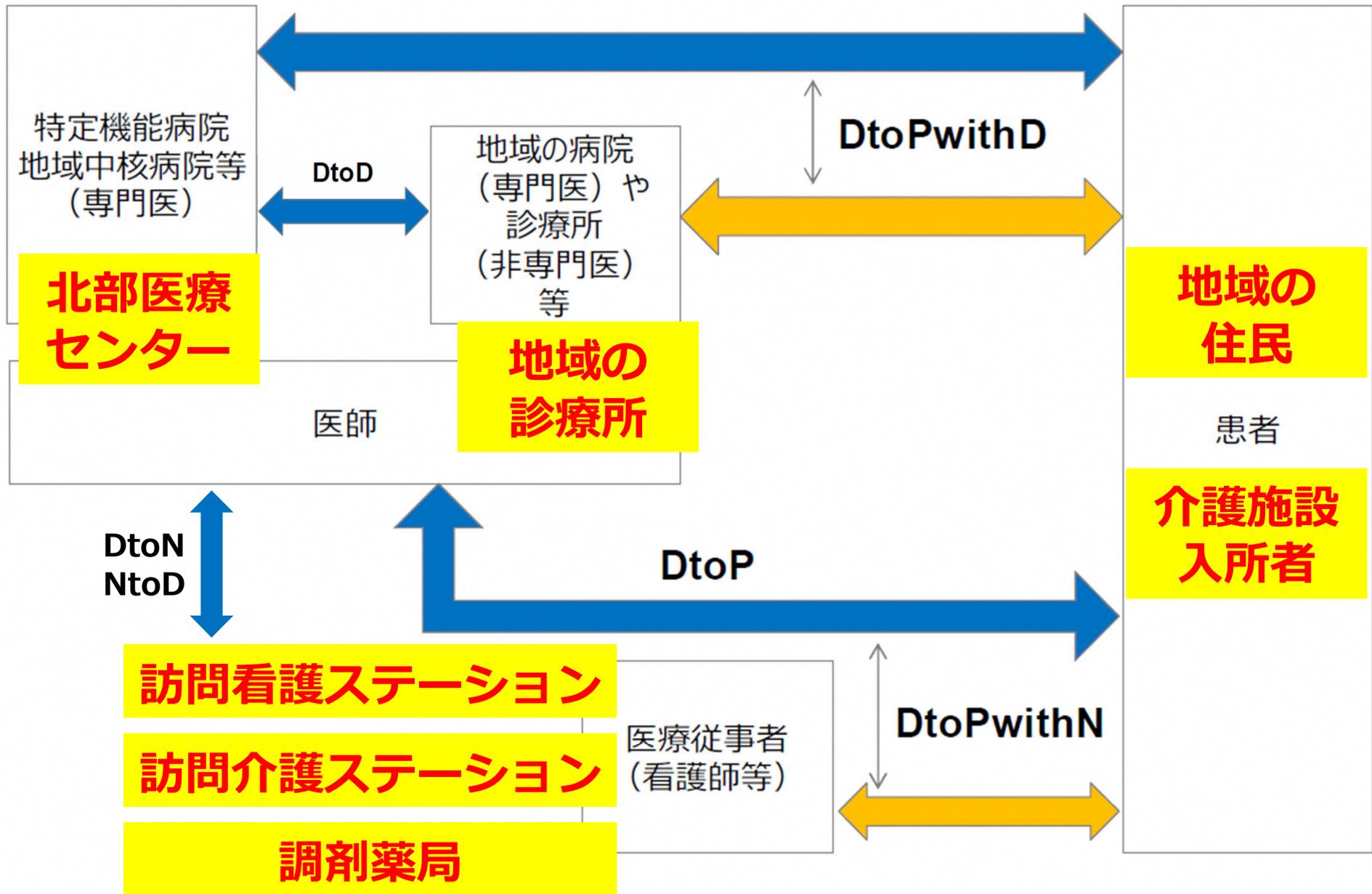
- インターネットへの**安定した接続・通信環境**
- 特別な機器を前提としない**Webブラウザ**を利用したシステムの開発

宮津市におけるICT利活用の可能性

- 北部医療センターの存在
⇒ **D to D** の実現も可能である
- 診療所と訪問看護ステーションなどの連携が既に実現
⇒ ICT利活用の**最初のハードル**を既に超えている
- 北部医療センターと診療所の連携
⇒ 特養・グループホームにおける**看取り**の対応も可能



青矢印：遠隔（非同位置）
 黄色矢印：対面（同位置）



青矢印：遠隔（非同位置）
 黄色矢印：対面（同位置）

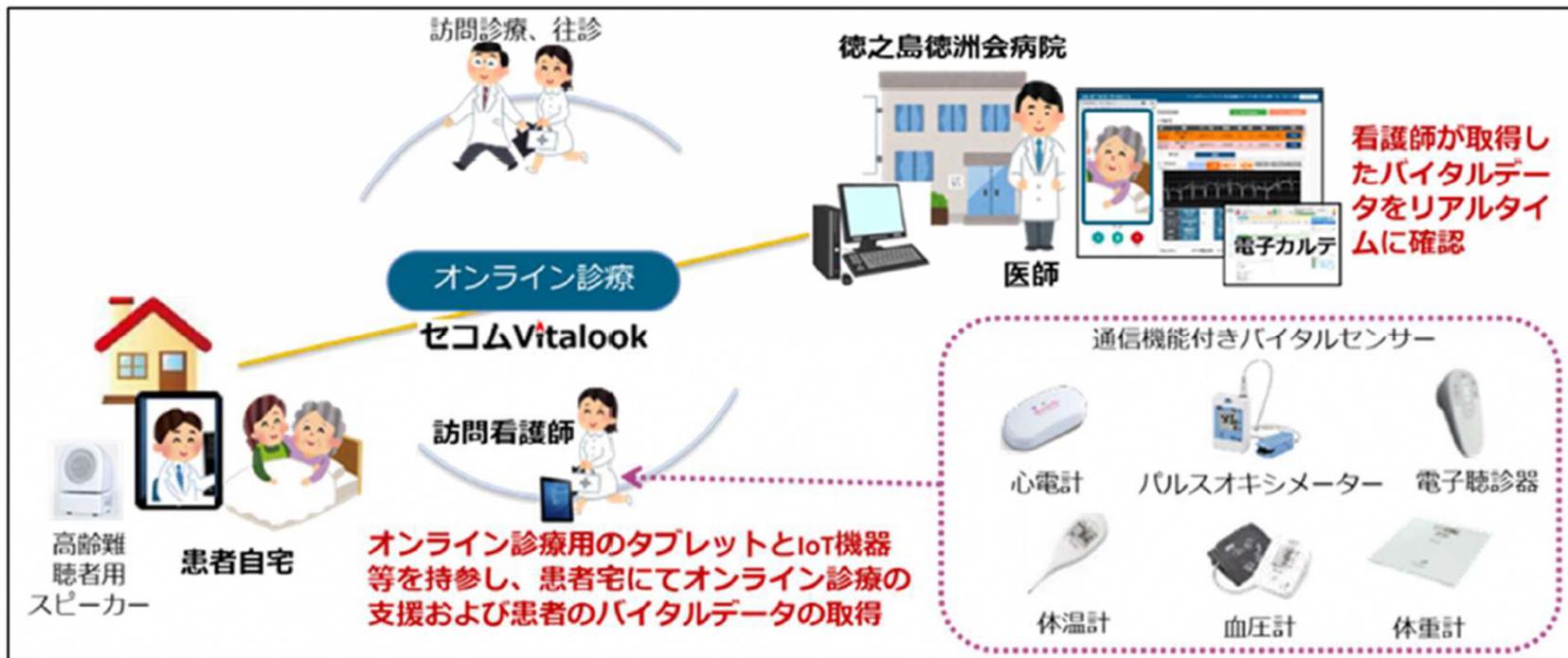
日本調剤の在宅医療「薬剤師訪問サービス」



- 自宅への薬剤搬送、所持薬の整理
- 服薬指導、服薬管理

事例) 徳之島 (離島) オンライン診療

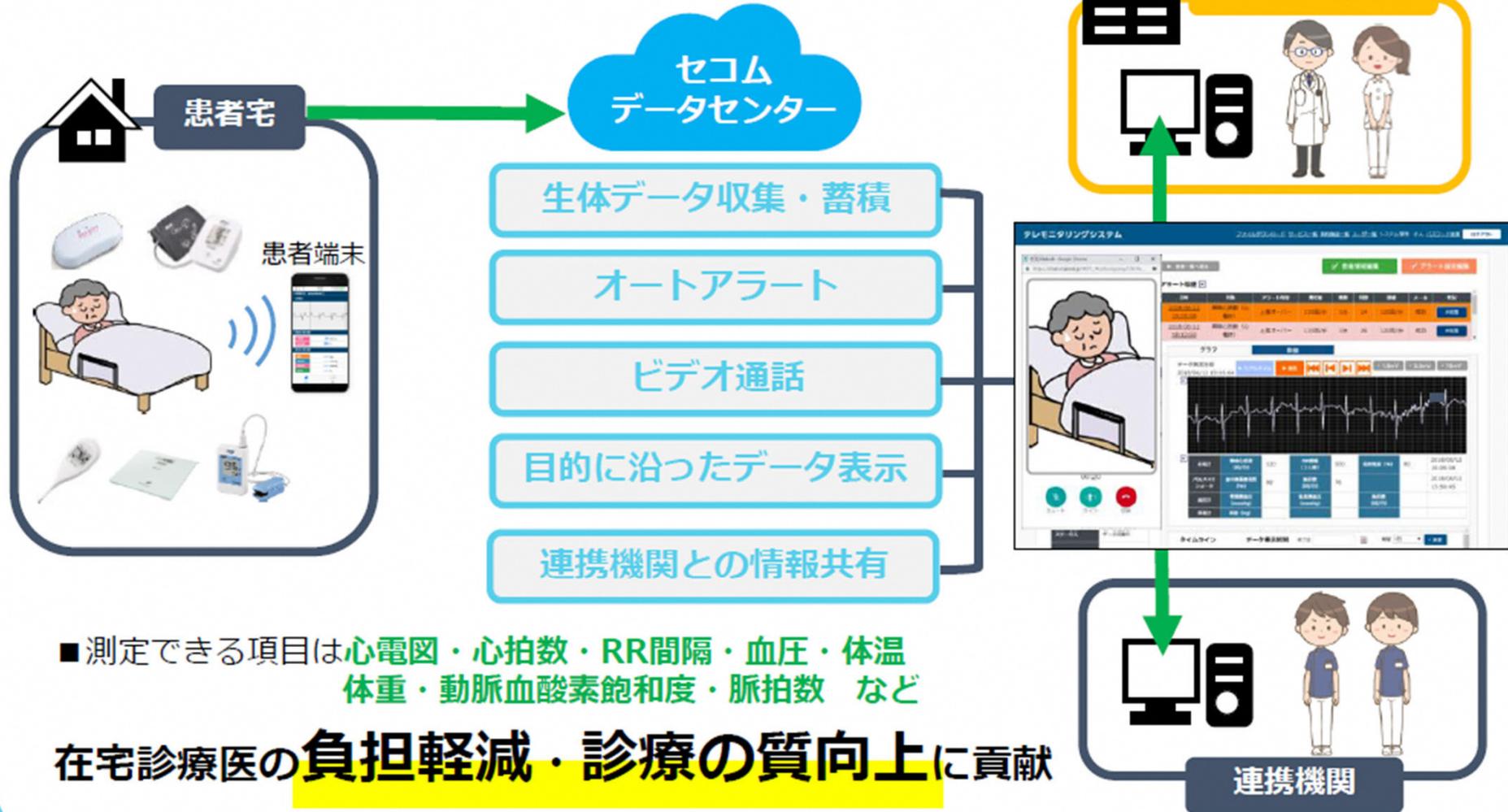
- 病院) 徳之島徳洲会病院
⇒在宅患者**200名**、24h365dの見取り
- **オンライン診療実施時には、訪問看護師が必ず立ち会うシステム**
⇒バイタルセンサーからデータを送信
PC/タブレットによる電子カルテ閲覧・入力



在宅患者の生体データを
常時リアルタイムに
セコムデータセンターへ収集・蓄積

医師や看護師、介護士など
在宅医療の従事者が遠隔から
患者の状態を確認

セコムVitalook

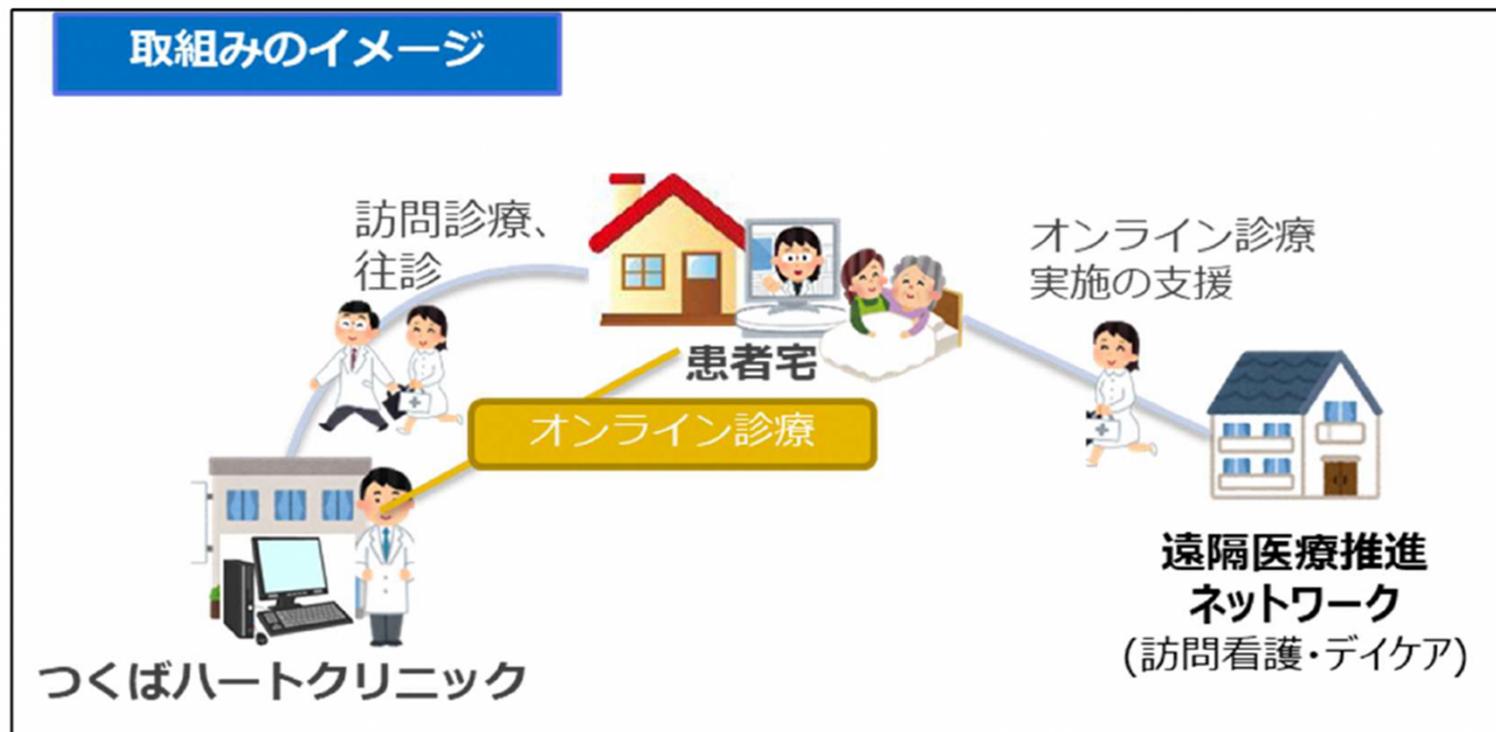


オンライン診療システムの功



事例) つくば オンライン診療

- 診療所) つくばハートクリニック + NPO法人
 - **オンライン診療実施時には、訪問看護師が必ず立ち会うシステム**
- ⇒システムの起動、医師への連絡を看護師が担当
iPad、FaceTimeによる情報連携が中心



事例) 山形県鶴岡地区医師会 地域医療連携

- 病院) 鶴岡地区医師会 + 株式会社ストローハット
⇒登録患者数：**74,775名**、参加施設：145
運用実績：11年以上
- **多施設・多職種間での患者情報の共有と相互コミュニケーションを可能としたシステム**
- 山形県酒田市・鶴岡市における**5病院 + 検診センター + 鶴岡地区医師会**の診療情報が「ちょうかいネット」(医療情報ネットワーク)において共有されている。
⇒それらの医療機関の(患者の)情報が、地域の145の施設(病院、診療所、歯科診療所、調剤薬局、訪問看護ステーション、**居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、介護施設**など)と共有されている

Net4Uの概念図



オンライン診療実施医師の研修

- ・ オンライン診療を実施する医師は、**厚生労働省が定める研修を受講**することにより、オンライン診療を実施するために**必須**となる知識を習得することが**必須**となりました。義務化は2020年4月から。オンライン診療を既に実施している医師は、2020年10月までに研修を受講する必要があります。

オンライン診療などICT利活用の問題点

- **費用面の問題**

- 市内全域をカバーするインターネット網
- 端末や通信機器の調達・維持管理
- 医師・看護師の人的費 など

- **運用面の問題**

- オンライン診療を実施するタイミングの調整
 - 医師が診療の片手間で対応するのは不可能
 - しかし、医師が常駐するのも困難
- 高齢患者の機器導入・操作
- 機器・通信等のトラブル発生時の対応